

令和6年度 友愛会保育園 保育園における自己評価について

A大変よくできている…80%

B良い…60%

C検討が必要…40%

D改善を要する…20%

実施期間: 令和7年3月25～28日

1,基本項目	評価	3, 健康及び安全	評価
①保育の基本(保育指針)を理解している。	A	③子どもが活動しやすいように毎日保育室の温度・湿度・換気に配慮している。	A
②園の理念や保育目標を理解している。	A	③④保育室や玩具・遊具については適宜、衛生面・安全面に配慮している。	A
③園の全体的な計画(保育課程)を理解している。	A	③⑤災害時安全に避難できるよう自分の役割を把握していますか。	A
④園の理念や方針に基づき、指導計画を立てている。	A	③⑥危険を意識して行動するよう、子どもに安全について指導をしている。	A
⑤定期的に自己評価をして保育の改善に努めている。	A	③⑦食事や排泄などの生活に必要な活動に自ら取り組むよう配慮している。	A
⑥保育の計画や実践に向けて創意に努めている。	A	③⑧トイレの後や食前の手洗いなど、清潔にする習慣が身につくよう働きかけている。	A
		③⑨子どもが落ち着いて食事やおやつを楽しめる雰囲気作りをしている。	A
2, 子どもの発達、保育内容		④⑩子どもが育てた物を食事やおやつに出し、一緒に食べる等食育に心掛けている。	A
⑦子どもの発達の特性や発達過程を理解し、「発達の連続性」に配慮して保育している。	A	④⑪偏食や食べ残しを少なくするために過度に叱らないよう配慮している。	A
⑧一人ひとりの発達を理解して接している。	A	④⑫身体を動かすことを楽しむように働きかけている。	A
⑨保育所では「養護と教育」が一体となって保育が展開されることに留意している。	A		
⑩一人ひとりの生理的欲求が満たされるよう配慮している。	A	4, 子育て支援、地域交流について	
⑪わかりやすい言葉で穏やかに話しかけている。	A	④⑬保育の方針や内容をわかりやすく説明している。	B
⑫子どもが何を求めているのか常に配慮して接している。	A	④⑭個々の家庭の養育方針を理解している。	B
⑬子どもの言葉にならない思いやサイン等心の動きを理解するよう努めている。	A	④⑮送迎時や連絡帳等で日常的な情報のやりとりを大切にしている。	A
⑭制止やせかす言葉を不必要に使わず、一人ひとりにあわせた対応をしている。	B	④⑯必要に応じて保護者との個別面談を行っている。	B
⑮「後で」などと待たせずなるべくその場で対応している。	B	④⑰懇談会など、保護者との意見交換の機会を設けている。	B
⑯「男の子だから…」等と性差への先入観による対応をしないよう配慮している。	A	④⑱緊急時は電話などで迅速な連絡を行っている。	A
⑰保育者は、子どもの身体や心を傷つけないよう配慮している。	A	④⑲家庭と協力して子どもが健康的な生活リズムを身につけられるようにしている。	A
⑱子どもが主体的に関わる環境を用意している。	A	⑤⑩子どもの育ちの過程を伝え合い、共通理解に努めている。	A
⑲友達との関わりで友達の良さや大切さに気づくようにしている。	A	⑤⑪虐待を疑われる子どもの情報を得たとき、関係機関に照会、通告を行う園の体制を理解している。	A
⑳子ども同士が互いの気持ちや発信を受け入れられるように配慮している。	A	⑤⑫地域の住民から受けた子育て相談の内容について連絡・相談すべきところを知っている。	B
㉑順番を守る等のルールが身につくように配慮している。	A		
㉒活動を通して、共有に道具や遊具を大事にすることを体験できるようにする。	A		
㉓人と心が通じ合う喜びを伝えるようにしている。	A	5, 職員の資質向上	
㉔異年齢の子どもと関わることを大切にしている。	A	⑤⑬自分の保育実践について同僚から意見を聞くように努めている。	B
㉕外国の人や文化の違いに親しみを持つ機会を作っている。	C	⑤⑭自己評価等で課題を見つけ、その課題の解決の為に自己研鑽している。	A
㉖地域の人や高齢者と親しむ機会を作っている。	C	⑤⑮研修に参加したり、専門書等を読んだりして様々な知識や技能の向上に努めている。	A
㉗感じたことや考えを自由に表現する機会を作っている。	A	⑤⑯園の会議などで子どもの利益を一番に考えて発信している。	A
㉘絵本を通して人の話を聞くことの楽しさ、大切さを体験する。	A	⑤⑰業務上知った個人情報等の秘密を守っている。	A
㉙心のこもった挨拶や、正しく丁寧な言葉で話しかけている。	A	⑤⑱障がいのある子ども(気になる子)の特性に合わせた支援計画を立てて保育を行っている。	B
③⑩「ありがとう」や「ごめんなさい」等の言葉を相手の気持ち大切に指導している。	A	⑤⑲障がいのある子ども(気になる子)について園全体で定期的に話し合う機会を持っている。	B
③⑪分からないことを子どもが聞けるなど安心して話ができる雰囲気を作っている。	A	⑥⑩子どもの最善の利益を考慮した保育を行っていますか。	A
③⑫子どもが人前で話をするときに相手にわかりやすく話せるよう援助している。	A		

課題の再確認

園内研修においてB,Cの項目について話し合い、課題について再確認を行う。

㊸外国の人や文化の違いに親しみを持つ機会を作っている。

→外国の人(英語教室講師)に触れる機会はあるが、年長児以外の子どもが交流する機会を持つことは難しかった。また、絵本等で文化の違いに親しむ様な活動を持つことが少なかった。

㊹地域の人や高齢者と親しむ機会を作っている。

→年中、年長組は中央ディサービスでの交流会では交流を持つ機会があった。しかし、その他のクラスでは祖父母を招いた行事が中止になったことで関わる機会が減ってしまった。

㊺制止やせかす言葉を不必要に使わず、一人ひとりに合わせた対応をしている。

→支援が必要な子どもが増えていたり、個々に対応することが難しく感じるがあった。

㊻「後で」などと待たせずなるべくその場で対応している。

→集団生活では、その場で個別対応ができない場面があり、待たせたりする場面があった。

㊼、㊽、㊾、㊿→養育方針の把握や面談、懇談会について

→担任(正職)は面談や懇談会に参加しているが、参加していない職員に周知する方法が徹底できていなかった。

㊽㊿自分の保育実践について同僚から意見を聞くように努めている。

→自分の保育実践について公開保育や模擬保育などでの反省会では聞くことがあったが、それ以外では自ら聞く機会はなかった。

㊽㊿障がいのある子ども(気になる子)の特性に合わせた支援計画を立てて保育を行っている。また、園全体で定期的に話し合う機会を持っている。

→担任が特性に合わせた支援計画を立てている。気になる子について園内研修で話し合う機会はあるものの、定期的ではなく内容も周知できていないところがあった。

次年度へ向けての取り組み

・英語教室に来られる先生と親しむ機会を持つことで、自分たちとの違いに気付けるような声掛けをする。また、絵本等で外国の人の生活にや文化について触れるきっかけを作る。

・地域の方との交流(中央ディサービスやふれあい農園等)は今後も続けていきたい。また、祖父母招待の行事は来年度より10月に開催し、ふれあう機会を持てるようにする。

・制止やせかす言葉などなるべく使わなくていいように心の余裕を持ち、人員の確保や環境の改善をしながら周りにフォローの呼びかけなどしながら適切に対応していきたい。

・個人面談や懇談会に参加していない職員に関しては、報告書を見ることで周知していく。また、養育方針の把握など全員が確実に書類に目を通すようにしていく。

・自分の保育実践について、期日を決めて意見を聞く機会を作っていく。また、自己評価を定期的に行い、振り返りを大切にしていく。

・障がいのある子どもへの支援計画については、担任が立てるが、その他の担任も把握できるように周知をしていく。また、園内研修だけではなく、毎日の申し送りの際にもっと細やかに連絡をし合い、全職員で常に情報の共有を図るようにする。

・運動会や卒園式など未満児の参加方法を見直す。誕生会では集合時間を見直し、子どもの負担にならないようにしていく。

・情報がある一定の職員だけににならないように、回覧板やノートを活用し、全職員での周知方法を更に深め、保護者や職員との連携を図る。

総評

・自己評価を行うことで、職員自身が保育の見直しを行ったことで、園全体の保育や運営について見直しをすることができた。様々な課題が上がってきたことで、一つひとつの課題について園全体で意見を出し合い、解決していくことができた。

・不適切保育を防ぐための取り組みとして、その都度経験年数に関係なく気付いた職員が声を掛け合いながら対応していく。また、園内研修でも人権チェックリストなどを通して自分の保育を振り返る機会を定期的に作ることを再確認した。

・気になる子どもへの支援として、小学校や関係機関とも連携を図りながら、園内でも研修や報告を重ね、個々の発達に合わせた関わりができるよう保育の質の向上に努めたい。

・保護者とも引き続き連携を取りながら、子どもも保護者も安心して園生活が過ごせるように信頼関係を更に深めていきたい。